

第51回 技術士全国大会（熊本・九州沖縄）

第51回 技術士全国大会 （熊本・九州沖縄） 開催に向けて

第51回技術士全国大会実行委員長 きよさき 清崎 じゅんこ 淳子
（応用理学、博士（理学）・熊本）



2025年（令和7年）10月25日（土）～10月28日（火）に第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）が開催されます。1日目の関連会議、ウェルカムパーティから2日目の分科会、式典、分科会報告、記念講演、交流パーティは、熊本市の中心部に位置する「熊本城ホール」が会場です。建物の上層部は宿泊施設でバスターミナルが併設されており、低層階には商業施設も入る総合施設になっています。

九州本部が担当する技術士全国大会は、2014年（平成26年）の福岡大会以来11年ぶりの開催となります。熊本での開催は、9年前の2016年（平成28年）4月に発生した熊本地震、2020年（令和2年）7月の豪雨災害等、数々の甚大な災害被害からの復興の様子を見たい、という声が多く寄せられていたことから企画されたという経緯があります。全国から技術士が参加され、意義深い学びや交流の場となりますよう、開催担当としての九州本部が一丸となって準備を進めているところです。まだ準備半ばであり、現状でのご紹介となりますが、決定している部分等はお伝えしていきたいと思えます。

全国大会に関する情報は、九州本部のホームページにて公開中です、全国大会のパナーができていますので、そこから入って情報をご覧ください。昨年10月の北海道大会で配布した「フライヤー」やこの4月に作成した「開催告知」も見るができます。また、お知らせの欄には、関連行事の情報も掲げています。各委員会や部会にヒアリングさせていただき、都度いただいた情報は更新するようにしています。今のところ1ヶ月に1回は新しい情報をまとめた資料を掲示しようと小委員会を中心に作業を進めています。

本大会のテーマは、「かたろう技術のミライ×つなごう技術のチカラ～火の国・水の国～」です。あえて、ひらがなとカタカナを配置した組み合わせにしています。まず熊本の象徴は何かと考えた時、ポスターには熊本城をとということが一番に思い浮か

びました。そして阿蘇や水前寺といった、火の国・水の国、また、熊本市は森の都の呼び名もあり、次々とイメージが湧いてきました。さらに、天草の綺麗な景色も球磨地域の国宝もと、あれこれ盛りだくさんになっていき、落ち着いたのが出来上がったフライヤーです。表をそのままポスターとして印刷し、統括本部や各地域本部へお届けしたところです。思えば、地域のいいところに目を向ける機会はそうそうなく、今回とてもいい時間をいただいたと改めて取り組んでいるところです。火の国の象徴である阿蘇カルデラは、世界ジオパークに認定（阿蘇ユネスコジオパーク）されていますし、熊本市の水道は全て地下水で賄っています（約74万人の人口を賄う日本で唯一の「地下水都市」です）し、改めて熊本のいいところを探す機会となりました。

10月26日（日）の午前中は、今回の大会テーマのもと4つの分科会が用意されています。第1分科会は防災のテーマで「関係のチカラ～経験を活かす・備える～」、第2分科会は青年のテーマで「ミライを支える技術者～“変わる力”を導くプロフェッショナル～」、第3分科会は地域のテーマで「半導体産業の集積と地域づくりのミライ～高まる技術士への期待～」、第4分科会は人材育成のテーマで「人口減少社会における人材育成～はばたくチカラ～」です。講演会あり、パネルディスカッションありで、それぞれ小委員会のメンバーにより着々と準備が進んでいます。ぜひ、ご興味のある分科会へ参加をお申し込みください。

午後は、式典、分科会報告、記念講演と続きます。記念講演は、九州大学名誉教授・熊本大学客員教授の松田泰治先生にご登壇いただきます。講演タイトルは、「2016年熊本地震の教訓に学ぶ～更なる創造的復興に向けて～」です。熊本地震の発生時は熊本大学で教鞭をとっていらっしゃいましたので、実体験を通してのお話をいただけることと思えます。先生のご専門は地震工学・都市防災・リスクマネジメントであり、「2016年熊本地震から得た教訓を振り返り、地域防災力向上に繋げるとともに、新たな社会経済動向を活かした更なる創造的復興に向けて、その課題や展望を探ります。」とお寄せいただいています。開催地熊本にぴったりのご講演と期待が高まっています。

ここで、パーティのアトラクションを少しだけご

紹介します。パーティは、両日とも17時30分に開始予定としています。10月25日(土)のウェルカムパーティでは、ジャズをベースとしたヴォーカル&ギター演奏、翌10月26日(日)の交流パーティでは、優雅で美しい山鹿灯籠踊り保存会による灯籠踊りとヴァイオリン&クラリネット&ピアノのアンサンブル演奏の2件で、皆様の交流に素敵な時間をご用意したいと思います。

式典当日、同伴の方々へパートナーズツアーをご用意しています。山鹿市など県北へのツアーで、コースの概略は、豊前街道沿いを散策する街歩き型「米米総門ツアー」、「彩座」での昼食を挟んで、和紙とノリだけで作られる室町時代からの伝統工芸品「山鹿灯籠」民芸館、国指定重要文化財「八千代座」・資料館、装飾古墳が日本で最も集中している菊池川流域の古墳群の中にある「熊本県立装飾古墳館」を見学していただく予定です。

テクニカルツアーは、阿蘇方面に向かうA(10月27日の1日コース)と人吉に宿泊するB(10月27日~28日の1泊2日コース)があります。主なコースをご紹介しますと、ツアーAは国の重要文化財「阿蘇神社」(紀元前282年建造)で平成28年熊本地震からの復興をテーマに研修、「新阿蘇大橋」復旧等事業研修、「熊本地震震災復興ミュージアムKIOKU」に立ち寄り道の駅「あそ望の郷・くぎの」で昼食、「阿蘇火山博物館」(併設展示施設「阿蘇山上ピジターセンター」)見学の後熊本市内へ戻り、熊本県庁敷地内にある「熊本県防災センター」(熊本地震を引き起こしたとされる布田川断層の剥ぎ取り標本が展示されており、27年前に同じ場所で採取された標本と並べてあるため地震の前後で約50cmズレたと比較できます→世界で3例目、並べての展示は世界初)で研修後、解散となります。

ツアーBは、1日目は午前中座学になりますが、「半導体産業と熊本の未来」についての講演を聴きます。益城熊本インターから人吉方面に向かうため、九州自動車道「宮原サービスエリア」で昼食を取り、午後は八代インターから国道219号線に降りて「球磨川災害復旧工事現場」研修として橋梁工事現場等を視察します。人吉市では、豪雨災害で大きな被害を受け復興を続ける織月酒造(人吉城の別名織月城より命名)の施設「織月城見蔵」見学をしてホテルへ。2日目はホテルから徒歩で移動できる国宝「青井阿蘇神社」(806年創建)へ。ここも豪雨災害で大きな被害を受けており、復興への道のりを研修しま

す。帰りは人吉インターから九州自動車道に乗り、嘉島ジャンクションから九州中央自動車道へ。国宝「通潤橋」視察へ向かいます。江戸末期(1854年)に農業用水を送るために建造された渓谷アーチ橋で、上部に3列の通水管(吹上樋)という独特の構造を持っています。昼食は「国民宿舎通潤山荘」を予定しています。午後は「熊本地震研修」として益城町へ移動します(益城町復興まちづくりセンター)。震度7を2度も経験した町ですが、震災遺構を後世に残し震災の記憶を伝えようとする取り組みだけでなく、新しいまちづくりを通して生まれ変わろうとしている姿を研修します。ここでは地表に現れた地震断層(民家の敷地内)を保存する取り組みが進められ、「天然記念物布田川断層帯 谷川(たにごう)地区」は追体験の場の一つとして見学することができます。最後はツアーAと同じく「熊本県防災センター研修」で2日目終了です。

なお、テクニカルツアーで訪問する施設や工事現場などでは、ご講演を始め各所で説明をいただくなど多大なご協力をお願いしています。国土交通省九州地方整備局八代復興事務所、熊本県土木部道路整備課、山都町役場の職員の方々や博物館等の学芸員、各施設の職員、益城町の方々など、テクニカルツアーが一層充実するようにお力添えをいただき、ここに感謝申し上げます。

そのほか、後援のお願いや来賓のご臨席、祝辞のお願いも進めているところです。協賛広告も、記念誌への掲載やパネル展示へのご参加を呼びかけ、お願いできる先を広げていけたらと動きだしています。ぜひ、皆様のご協力も仰ぎたく、お声かけなどもよろしく願いいたします。また、開催期間中の危機管理も重要な課題の一つです。担当の小委員会を立ち上げ、参加する皆様へも「安全・安心の菜」をご用意できればと取り組んでいます。

全国大会の参加申し込みは7月7日(月)を開始日とし、9月10日(水)までの約2ヶ月間を申込期間として予定しています。九州本部のホームページにある全国大会のパナーから入っていただくと、申し込み手続きへ移動できるように準備を進めているところです。どうぞ、ご縁のある皆様へ、九州、熊本へ行こうとぜひお声かけください。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

所属：株式会社クロスエンジニアリング
(E-mail : j1u1nj1u1n@yahoo.co.jp)